

釧路CDE研究会

夕日丹頂CDELの孵化!

●古川真

2015年の「釧路糖尿病デー」から「釧路根室地域糖尿病療養指導士(夕日丹頂CDEL)研修会」を始めました。無事、2017年7月、8名の夕日丹頂CDELが誕生しました!
この新しい仲間と共に「目の前の1人のために行動しよう!」「道東(DO TO)が1つになろう!」という「DO TO 1!」プロジェクトを展開中です!多くの方に「糖尿病療養」をする「力」と「ところ」を持っていただき、道東地域で糖尿病療養ができて「幸せだ」と言っていたことが目標です!



特定非営利活動法人 秋田県糖尿病対策推進協議会

秋田県糖尿病療養指導士の活動状況と協議会としての支援

●菊地入子

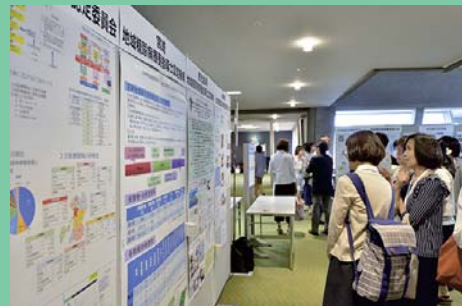
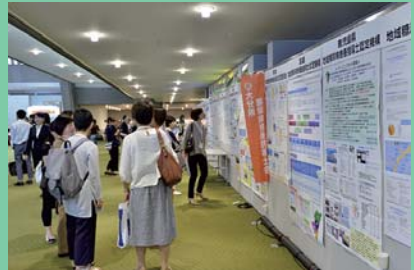
2010年より養成を開始した「秋田県糖尿病療養指導士」は、2回の認定更新を終え、現在625名が活動しています。認定更新の報告書から、個々の療養指導のみならず、他職種や他施設との連携を意識しながら活動していることがわかりました。また、知識や技術の維持向上を目的とした協議会認定研修会は、県内全域で開催され、活動報告や研究発表の場にもなっています。今後さらに、糖尿病対策に携わる方々と連携し、活動を広げていけたらと考えます。

いわて糖尿病療養指導士会

いわて糖尿病療養指導士発足から現在までを紹介

●佐々木幸子

当会は、1996年に発足した「盛岡市糖尿病看護研究会」を前身とし、2008年に発足しました。糖尿病患者さんの支援に関係する職種の方全てが受験できることが特徴となっています。現在は年4回程度の勉強会を実施し、今年度より資格認定期間を3年から5年へと変更し、広い面積の岩手県において「いわて糖尿病療養指導士」が活躍できるように取り組んでおります。



宮城県糖尿病療養指導士認定委員会

宮城県糖尿病療養指導士(CDE-MIYAGI)第1回認定までのプロセスと今後の展望

●薄井正寛

宮城県では、今年度よりCDELの認定を開始いたしました。6・7月に開催した認定講習会は定員100名のところ378名の応募があり、定員を130名に急遽、増員しました。10月に初年度の認定を行う予定です。また、CDEJ資格者、失効から2年以内の方も、書類審査のみでCDELを取得可能とし、対象者の方々にも参加をPRしております。日本糖尿病協会のご支援を頂きながら、CDEJとCDELが手を携え、宮城県の糖尿病療養指導レベル向上を目指していければと考えています。

福島県糖尿病療養指導士会

福島県糖尿病療養指導士会からの活動報告

●清野弘明

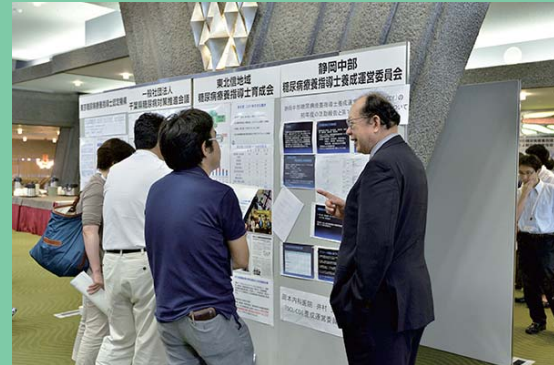
福島県糖尿病療養指導士会は、福島県糖尿病患者様の糖尿病療養を支援するために、2008年度に結成された「コメディカル」の組織です。2016年度までに、871名の医療従事者が認定され、各地で活躍されています。福島県糖尿病対策推進協議会の組織メンバーとして認めていただき、各地で活躍しています。毎年4月、春の総会とセミナーでは、アップデートな講習会を講師の先生にお願いし、糖尿病療養指導の技術を磨いています。

茨城県糖尿病療養指導士会

茨城県糖尿病療養指導士会の糖尿病サマーキャンプへの取り組み

●小野陽子

茨城県糖尿病サマーキャンプへ、以前よりボランティア要員として参加していましたが、2013年からはその企画に携わるようになり、最近では中心となって企画・運営を行うことにより、以下のような効果がありました。
①医療ボランティアの質・量を確保②スタッフ本部の設置による指示系統の統一③教育内容の充実(勉強会やグループディスカッションへの参加)
今後、さらに参加者にとって魅力的なキャンプを目指しています。



群馬県糖尿病療養指導認定機構

群馬県糖尿病療養指導認定機構 地域糖尿病療養指導士を目指して

●戸所文生

第1回目で127名、第2回目で115名の群馬県糖尿病療養指導士が、県内に誕生しました。第1回と第2回の職種での比較は、看護部門が10%増えました。また県内での地域別比較を見ると、講演会を開催し広報活動を行った北毛地区(渋川・沼田など)が、前回に比べて倍以上の指導士を誕生させました。施設別では、病院群が前回より10%増となりました。今回、2回目の糖尿病療養指導士を認定するに当たり、地域糖尿病療養指導士をどのように説明(お知らせ)するか課題が見えてきました。また、回を重ねるごとに地域糖尿病療養指導士の数も増えていき、体制をバックアップする組織(事務局)の重要性も今後考えていかなければなりません。

栃木県糖尿病療養指導士認定機構

栃木県糖尿病療養指導士認定機構の発足と1年目の活動報告

●野澤彰

栃木県糖尿病療養指導士認定機構(CDE-Tochigi)は、栃木県における糖尿病教育の正しい知識と技術の普及・啓蒙を図り、医師の指示下で熟練した療養指導を行うことのできるスタッフを養成・認定しています。2016年6月に発足し、2017年5月に第1回の認定者を認定しました。認定者は272名(うちCDEJ 20名)で、職種や所属施設も多様です。糖尿病療養指導の質の向上を目指す療養指導士の育成に向け、情報提供や研鑽の機会を設けていきます。

東京糖尿病療養指導士認定機構

東京糖尿病療養指導士認定機構 ICTを活用した試験運営に向けて

●本田正志

当機構は糖尿病に関する医療職・専門職に研修を行い、糖尿病に関する知識の修得を認定することで、東京の糖尿病患者とその予備群約200万人を支える層の厚い社会インフラを構築するため、2017年3月に設立されました。患者さんを指導する医療職には、東京糖尿病療養指導士(東京CDE)、保健指導等の専門職には東京糖尿病療養支援士(東京CDS)があり、研修後、CBTシステムによる試験合格後に認定いたします。研修会、認定試験の情報はHP(<http://cde.tokyo>)をご覧ください。



一般社団法人千葉県糖尿病対策推進協議会

千葉県糖尿病療養指導士/支援士(CDE-Chiba)の活動報告2017

●三村正裕

千葉県糖尿病対策推進協議会(DMC)は、2012年11月より千葉県医師会と共催で千葉県糖尿病療養指導士/支援士(CDE-Chiba)を開始しました。現在CDE-Chibaの人数は1172人で、毎年順調に増加しています。DMCでは、CDE-Chibaのレベルアップを目的として、スキルアップ研修会、学術講演会、CDE-Chibaフェスティバル、講習会を行っています。来年度の更新者(認定期間5年)を1人でも多くするため、2017年はCDE-Chibaピンバッジを作成しました。DMCは、CDE-Chibaが活躍できる活動を行っています。

東北信地域糖尿病療養指導士育成会

東北信CDEL活動報告

●森本光俊

長野県東北信地域のCDEL制度は、2008年4月に発足し、10年目を迎えました。発足当初から職種や所属施設の隔たりのない、コメディカル同士の強固なつながりを主軸として運営して参りました。現在364名のCDELが認定され地域で活躍しています。昨年度は、日本糖尿病協会主催の糖尿病シンポジウムをCDELが中心となって盛大に執り行うことができました。今年度は、行政・医師会・保険者が主導で展開している糖尿病性腎症重症化予防連絡協議会に参加し、地域行政の保健師・管理栄養士を中心にCDEL取得への動きが加速しています。今後も有資格者1人1人の地域活動を大切に、地域住民のための実のある認定制度として成長させていくため、尽力していきたいと思っております。

静岡中部糖尿病療養指導士養成運営委員会

静岡中部糖尿病療養指導士養成運営委員会(SCL-CDE)の初年度の活動報告

●菅沼博茂

当会は、役員・メンバー(医師10名、看護師3名、理学療法士3名、薬剤師2名、管理栄養士2名、検査技師2名)のコメディカル全て、CDEJで構成されています。昨年は、6~9月にかけて16回の講習会を開催しました。昨年11月に開催された資格試験では、37名が受験し、全員合格。合格者内訳は、薬剤師13名、看護師16名、管理栄養士3名、検査技師1名、理学療法士1名、歯科衛生士3名です。平均点は91/100点でした。

岐阜県CDEネットワーク

岐阜県CDEネットワークの「一歩」(活動報告と課題)

●古田均

岐阜県糖尿病療養指導士(以下CDE岐阜)は、歯科衛生士など新たな職種も加わり、資格取得者総数は321名となりました。施設での療養指導や糖尿病関連事業への協力を行う反面、施設や地域格差、勤務異動などの問題があり、役割が発揮できない現状も少なくありません。今後の課題は他施設のCDE岐阜間のネットワーク作り、CDE岐阜としてのやりがい感を向上させる研修会の開催など、他県に負けたくない積極的な「一歩」を踏み出したいと考えています。

滋賀糖尿病療養指導士認定委員会

CDE滋賀の活動報告と今後の課題 ●村松典子

CDE滋賀(滋賀糖尿病療養指導士)は設立後3年が経過し、326名の認定者を輩出しています。CDE滋賀の認定とフォローアップ事業は「滋賀県糖尿病対策関連事業」として支援を受けて、「CDE滋賀フォローアップセミナー」を各医療圏域で合計6回、「CDE滋賀コーチングセミナー」を全医療圏域対象で開催し、CDE滋賀認定取得後のフォローアップ事業に力を入れています。また、各セミナーでは多職種での交流を深めることを目的にスモールグループディスカッションも行い、毎回好評を得ています。今後の課題としては、医療・介護現場で活躍できるような人材育成および環境整備を行っていくことが急務であり、CDE滋賀認定者自身が「糖尿病療養の知識が現場で活かされた」と実感してもらえることを目指したいと考えております。

和歌山LCDE認定委員会

和歌山地域糖尿病療養指導士(WLCDE)活動報告と今後の課題 ●岡井明美

現在、410名のWLCDEが誕生。2015年からは更新者用講習会を年1回開催し、最新情報についての講義とワールド・カフェ方式で活動報告や症例検討を行い、多職種間の連携を図っています。いろんな視点からの問題点や関わり方がとても参考になり、モチベーションアップするなど前向きな意見がある一方で、資格を活かされていないように感じるなどの声がありますので、認定者の方が資格を活かせる場を増やしていくことが今後の課題となっています。

岡山県糖尿病医療連携推進事業

岡山県における糖尿病医療連携の取り組み～「おかやま糖尿病サポーター」認定とその役割～ ●長田麻里

「おかやま糖尿病サポーター」は、糖尿病に精通したメディカルスタッフを養成し、県内の糖尿病医療水準を向上させる目的で2014年度より認定を開始しました。認定開始後3年半が経った現在は、約1700名のサポーターが誕生し、県内各地で活躍しています。

「おかやま糖尿病サポーター」の特徴は、医師、歯科医師、メディカルスタッフ、行政スタッフが「一丸となった岡山県糖尿病医療連携ネットワーク(おかやまDMネット)」の一員であることです。認定されたサポーターは県内の各種医療機関をはじめ、調剤薬局、訪問看護、介護施設、行政、検診機関などに広く在籍しており、地域に根ざした糖尿病医療をサポートすることが期待されています。

認定開始5年目のまだまだ新しい制度ではありますが、県内の糖尿病医療水準の向上と均てん化を目指して、今後も取り組んでいきたいと考えております。

鳥取県糖尿病療養指導士認定機構

鳥取県糖尿病療養指導士制度の初年度を振り返る ●檜崎晃史

2016年度からCDEL認定事業がスタートしました。認定機構を糖尿病対策推進会議の下部組織とし、事務局も県医師会に置き、県内全ての関係者が参画する体制を構築しました。今後のCDEJとの連携を視野に、グループワークのファシリテーターを県内CDEJに委嘱、CDELとCDEJの共同作業をプログラムに採用しました。まだ地域や職種の偏りはありますが、受講者の88%はCDEJ取得困難な職種や環境であり、今後CDELが糖尿病療養指導の裾野の拡大に寄与することが期待されます。

山口県糖尿病対策推進委員会

やまぐち糖尿病療養指導士の活動 ●有富早苗

2007年度に「やまぐち糖尿病療養指導士」が誕生し11年目になりますが、現在977名の資格保有者がいます。「やまぐち元元フェア」や「糖尿病ウォークラリー」等や血糖測定や糖尿病相談のボランティア活動を行っています。年1回開催のレベルアップ講習会も、グループ学習や実習を重視した内容となっていますが、日本糖尿病療養指導学会集会は2日間参加型研修のため、山口から少しでも多くの方に参加していただき更新率を上げていきたいと考えています。

京都府糖尿病療養指導士認定委員会

京都府糖尿病療養指導士(CDE京都)の現状と活動報告 ●松本嘉浩

2013年度に認定を開始し、4年間でちょうど1000名が認定されました。療養支援の質の向上のため、CDE京都認定者自身が実践的なスキルアップセミナーを毎年企画しています。どのように患者さんと関わっていくかを話し合い、認定者のモチベーションをアップし、患者さんの笑顔につながる療養支援を目指しています。さらに各職場や地域でCDE京都としての活動状況を把握し、職種を超えたネットワークを構築することを目指していきたいと思ひます。

奈良糖尿病療養指導士認定委員会

「CDEなら」の立ち上げと奈良糖尿病療養指導士の活用を目指して、私達らしさとして工夫したこと ●吉田直子

奈良の糖尿病患者支援を広げ、深めたいと奈良糖尿病療養指導士(CDEなら)制度を設立しました。様々なメディカルスタッフとの交流や糖尿病に関する正しい基礎知識を持つことで、少しでも患者支援への自信につながるよう、認定講習会を開催します。シンボルマークは、多くの人が糖尿病に関心を持つ契機となることを期待し、ブルーサークルに紅葉をあしらった大和三山と鹿です。他地域の皆さんも、バッジ交換で私達と交流を深めませんか?

広島県糖尿病療養指導士認定機構

広島県糖尿病療養指導士認定機構 活動報告 ●藤川のみ

発足から6年が経過し、認定者は535名となりました。また、第1回認定者231名中69名の方が更新されました。更新をしなかった方へのアンケートで、更新しなかった一番の理由は、「更新に必要な単位数が取得できない」でした。今後、単位数の増加等、更新率を高くする対策を行っています。糖尿病腎症重症化予防プログラム(広島版)でCDEによる療養指導を行っており、2016年度は45名に実施しました。2017年度は170名の予定です。

鳥根県糖尿病療養指導士認定機構

鳥根県糖尿病療養指導士(CDE鳥根)認定機構設立20周年を迎えてー「チーム鳥根」を目指してー ●佐藤利昭

本年、CDE鳥根認定機構は、設立20周年を迎えました。当機構の特色は、CDEの養成に重きを置いていることにあり、受講料5万円での2カ年間の研修の後、認定試験を行い合格者に資格が授与されます。所属施設での日本糖尿病学会加入の医師の存在を条件とせず、行政・介護施設まで対象を広げて、CDEJでは対象職種としていない医師、保健師、歯科衛生士、作業療法士にも門戸を開いています。これまでの18年間で471名を認定し、現在10期生55名が2カ年間の研修を行っています。認定者が各医療機関での糖尿病療養指導のみならず、県内で開催される糖尿病関連の種々のイベントにおいても中心的役割を担っています。CDE鳥根を組織し運営することによって築かれた医療者のヒューマンネットワークが、糖尿病医療連携・糖尿病対策推進の原動力となることが期待されます。

かがわ糖尿病療養指導士認定機構(みとよ糖尿病療養指導士)

9月にスタートとなりました ●米井泰治

かがわ糖尿病療養指導士は2017年9月から活動を開始し、2018年4月から認定を開始する予定です。県内で既に認定されている53名の「みとよ糖尿病療養指導士」を引き継ぎ、他県に負けない活動をしていこうと思っています。認定試験は行わず、多職種を受け入れ、医療ボランティア活動を認定更新の条件に入れるなど、周りの先輩地域糖尿病療養指導士のいろいろなお手本を取り入れながら行う予定です。今後もよろしくお願ひします。

大阪糖尿病療養指導士認定機構

大阪糖尿病療養指導士認定機構(CDE大阪)：活動報告 ●田中永昭

大阪糖尿病療養指導士認定機構は、大阪における糖尿病教育の正しい知識・技術の普及・啓発のため、大阪糖尿病療養指導士の養成・認定を目的とします。資格対象職種は、看護師(保健師・助産師)、准看護師、薬剤師(調剤薬局含む)、管理栄養士・栄養士、臨床検査技師、理学療法士、歯科衛生士、視能訓練士、介護福祉士、健康運動指導士、臨床工学士です。共に楽しく学び、糖尿病患者さんに還元しましょう!

糖尿病療養指導士兵庫県連合会

平成28年度の活動報告 ●六車龍介

2013年から兵庫県糖尿病療養指導士認定制度(CDE兵庫)を設立し、認定に必要な教育セミナーと認定試験を毎年実施しています。4年間で計282名のCDE兵庫を認定しました。毎年参加者300名規模のステップアップセミナーや、その他研修会も積極的に開催しています。2016年11月には、淡路島洲本にて県民の糖尿病認知向上のため血糖・HbA1c測定イベントを行い、100名以上の方に足を運んでいただきました。

宮崎地域糖尿病療養指導士認定機構

CDEL発足から3年～3年の歩みと今後の課題～ ●原田和子

宮崎地域糖尿病療養指導士認定機構は、2014年7月に活動を始め、2015年5月に1期生184名の宮崎地域糖尿病療養指導士(CDEL)を認定し、これまで3期生まで合計332名のCDELが誕生しています。認定までに4回の講義を受けたのち試験があり、その合格率は70～80%です。CDEJや他県で認定されたCDELも紙面申し込みで認定しています。また「スキルアップセミナー」を、毎年県内4地区で開催し、ブラッシュアップに貢献しています。

徳島県地域糖尿病療養指導士認定機構

徳島県糖尿病療養指導士の歩み ●鶴尾美穂

徳島県は、1993年から糖尿病死亡率ワースト1位が続いていました。徳島県医師会では糖尿病対策班を設立し、2009年に徳島県糖尿病療養指導士が発足。昨年から介護福祉士も加わり、現在423名となりました。CDELは専門医不在地域でも活躍し、患者教育や糖尿病連携手帳推進に貢献し、ウォークラリーや徳島マラソンの血糖測定など地域貢献も行っています。徳島県は2014年度から、糖尿病死亡率1位を脱却しました。今後もさらにながらばっていきます。

高知県糖尿病療養指導士認定機構

高知県糖尿病療養指導士(CDE高知)の現状 ●藤本新平

CDE高知の認定は3年目を迎えましたが、看護師(152)、保健師(30)、助産師(1)、准看護師(42)、管理栄養士(70)、栄養士(11)、薬剤師(39)、理学療法士(33)、臨床検査技師(30)、歯科衛生士(9)、視能訓練士(3)、介護福祉士(29)の医療職種に資格を認定しており、現在449名となっています[()内各職種別認定者数]。施設は、病院、医院、保健所、市役所、介護施設、調剤薬局と多岐にわたっており、これまでCDEJが存在しなかった地域にも波及しており、地域偏在解消に向けて大きな一歩が踏み出せたと考えています。最近、地域の勉強会・情報交換会も設立されており、多職種が地域において「顔の見える関係」を構築し連携できると期待しています。CDEJでは事実上対象外となっていた行政施設、調剤薬局、介護施設での新たな取り組みにも注目しています。

福岡県筑後地区糖尿病療養指導士会

福岡県筑後地区糖尿病療養指導士会20年のあゆみ ●武石千鶴子

福岡県筑後地区糖尿病療養指導士会は、糖尿病患者教育の正しい知識・技術の充実や向上を図り地域医療に貢献することを目的に、1997年に発会し、今年20周年を迎えることができました。2008年からは会員数増加もあり、組織を5つのエリアに分け、会長以下それぞれのエリアに副会長を擁し、エリア研修会、糖尿病の集い、ウォークラリー、行政との協力事業の「まちかど栄養・糖尿病予防健康相談」やエリアでの健康展など、より地域に密着した活動を行っております。

大分県糖尿病療養指導士会

20年目に向けてQOLを高めよう!大分県CDELの活動評価&今後の課題 ●脇幸子

大分県糖尿病療養指導士会は、現在会員560名で、1999年から活動を繰り広げています。地域での糖尿病啓発活動は、肝臓疾患やがんなど合併症にも注意を払って連携に努め、3000人を超える輪が広がっています。特に、2017年度からは、日頃の療養指導における課題や悩みを共有し、知恵を出し合って解決策を探り、学び合うカンファレンスを行い、自施設での糖尿病療養支援の質向上を目指しています。また、他県CDELとの交流の輪を広げていきたいです。

鹿児島県地域糖尿病療養指導士認定機構

鹿児島県地域糖尿病療養指導士(KLCDE)の紹介 ●出口尚寿

桜島を中心に薩摩・大隅半島に二分され、離島を含む南北600kmに及び鹿児島県では、地理的ハンデを解消すべくe-ラーニングとWeb認定試験による認定制度を全国に先駆けてスタートしました。2年間で255名のCDELが誕生し、県内くまなくCDELを!という初期目標を達成しました。これからは「e-ラーニングを療養指導の実践へ!」を合言葉に、各地で顔の見える連携を構築して鹿児島県の糖尿病診療のレベルアップに貢献したいと張り切っています。

福岡県糖尿病療養指導士会

福岡LCDEの現状と問題点 2017年版 ●吉井千賀子

福岡県糖尿病療養指導士会は、啓発活動のイベントへのボランティア参加に対して、スタッフ数は確保できていますが、イベントの趣旨・内容が把握でき参加しているかなどの問題が生じています。そのためイベント毎に実行委員会を立ち上げました。目的は、毎回実行委員長が変更になり運営がうまく行かないという現状をなくし、円滑な運営ができるようになることです。また、当会では、CDEL受験者数も多いのですが、退会者数も合格者の30%と多く、退会の理由として半数以上が「更新の意思なし」と答えています。今後、意識調査を行い、スタッフの気持ちなどを明確にしていきたいと考えています。

佐賀糖尿病療養指導士会

佐賀糖尿病療養指導士会の現状と活動報告 ●安永麗子

佐賀CDE会の会員数は現在397名となりました。受講資格として新たに社会福祉士、介護福祉士も加え、多岐にわたる施設での連携を目指しています。「つなげよう ささえよう 糖尿病の輪」を合言葉に、友の会活動や糖尿病関連イベント、勉強会を行っており、多職種で「顔の見える関係」を構築できていると感じています。今後CDE取得後のモチベーションアップに対する取り組みも行い、更新率向上を目指していきたいと考えています。

熊本地域糖尿病療養指導士認定委員会

2次医療圏ごとの研修会開催の試み ●西田健明

熊本地域糖尿病療養指導士は、熊本県内の2次医療圏ごとで研修会を開催し、地域に根ざした療養指導士のネットワークの構築を目指しています。2017年4月1日現在で586名認定しており、今年度も195名が受講しております。今後は、CDEJと連携し、住民への糖尿病啓発活動や、サマーキャンプ・ウォークラリーなどへの協力等の社会的活動の推進とともに、災害時支援体制の構築にも取り組んでいきます。

沖縄県地域糖尿病療養指導士会


沖縄県地域糖尿病療養指導士会(OLCDE)の取り組み ●許田英子

沖縄県地域糖尿病療養指導士会、現在会員数449名。今年度研修会は、沖縄版糖尿病患者の現状を「糖尿病劇場」で開催、糖尿病患者への介入方法を考える講習会を行いました。世界糖尿病デーでは、病院独自で開催する活動としてCDELとCDEJが一緒に参加する病院も増えています。今回の日本糖尿病療養指導学会参加での各県の活動報告では、よりスキルアップされた地域も多く、沖縄県の役員に情報共有しようと思ひました。

愛媛地域糖尿病療養指導士認定制度委員会

愛媛地域糖尿病療養指導士認定のための研修会～基本的学習と、さらなる充実と実践のための研修会を企画する～ ●中村慶子

愛媛地域糖尿病療養指導士(ECDE)は現在382名、16年目を迎えました。本年度の糖尿病療養指導学会集では、ECDE認定に必修である受験者用(参加者106名)、認定更新者用(参加者51名)の研修会のプログラムと実施後の評価を報告しました。県内5地区にはECDEリーダーが存在し活動の中心的な役割を果たしています。「愛媛1つのチーム医療に!」を目指して、患者さんと共に学び合うECDEが自慢です。



北九州CDEの会

「ブルーライトアップ in 北九州」での活動報告 ●岡田圭子 ●安永勝代 ●河原万壽美

北九州市では2015年に初めて黒崎駅でライトアップを行い、昨年は会場から14km離れた歴史ある長崎街道木屋瀬宿記念館のライトアップを生中継しながら、チャリティコンサートを開催しました。会場では、血糖測定や相談コーナーを設け、来場者の方々が自分の血糖値を確認したり、記念写真を撮られたりして、興味を持っていただくことができました。イベントを通じ、多くの方に糖尿病の知識を深めていただければよいと思います。